

<http://filipinonagkaisa.org/>



NPOフィリピンナガイサ

令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業プログラム（A）

# 「つながるひろがる にほんごでの暮らし」 を活用して（報告）



特定非営利活動法人  
フィリピンナガイサ

半場 和美



## コーディネーター・日本語教師の皆様

当法人は平成22年、本事業の委託を文化庁から受け、私はその時から現在まで地域日本語教育コーディネーターを務めています。年々、日本語教育の社会的意義が高まるにつれ、共生社会への理解促進のために活動の周知・発信、後継者育成の必要が生じ、この活動をお伝えする機会が増えて参りました。その度に自分たちの活動を言語化して説明を試みるのですが、それはとても難しいことだと感じていました。なぜなら、私はこの活動の草創期から関わっており、感覚的にこの役目が身に着いていたからです。それは職人技のようなもので、どの言葉をもってしてもしっくり来ない状態になっていました。

そんな悶々とした思いを抱えていた中、文化庁日本語学習動画サイト「つながるひろがるにほんごでの暮らし」を、日本語教室での教材に使うことにしました。最初は日本語教室で日本語学習者（定住フィリピン人）に向けた教材として使い始めたのですが、使っていくうちに学習者だけの学びに留まらない、指導者・支援者にとっても気づきの教材として、あるいは地域づくりの視点でも、もっと活用の幅を広げられそうだと感じるようになりました（のちに、「つなひろ」であっても、すでに数多ある日本語教育教材であっても、やり方次第だったのだと気づくのですが、そのことに気づききっかけに、この「つなひろ」があったのです）。

ここに紹介する事例は浜松の地域性によるものかもしれませんが、あるいは講師によっていかようにも展開できることを考えれば「1つの事例」に過ぎません。また、かく言う私自身が、令和4年度以降同じテーマを扱っても、違った展開になるのかもしれませんが。それでも、令和3年度の事業の中で、私が「つなひろ」を使う際に疑問に感じ、自問自答したことを再現し、記録に残しておくことは、もしかしたら同じように地域日本語教育の今後の発展を願う人の助けになるかもしれないと考えました。何よりも、こうして記録に残しておくことは、コーディネーターとしての私の成長にとっても大変有意義なものだと考えています。

教師が学習者を評価すること、学習者に何かしらを求めるということは想像がつくかもしれませんが、実は地域での日本語教室活動を通してコーディネーター・教師としての自分も自己理解や仕事理解を深めながら成長してきたという実感があります。この当事者性が、地域の実情と課題に取り組むエネルギーになってきたということ、ここにご報告します。

最後にこの場をお借りして、当法人の「つなひろ」をはじめとする活動を温かく見守り、活用事例として全国に発表する機会をくださった文化庁国語課地域日本語教育推進室の日本語教育専門職の皆様、また、時間を惜しまず本取組の相談にのっていただいている有田玲子先生（東京にほんごねっと代表）、本取組に協力してくださっている多くの皆様はこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

令和3年3月31日  
特定非営利活動法人フィリピンナガイサ  
地域日本語教育コーディネーター 半場和美





地域日本語教育コーディネーター  
として抱いた疑問を

「つなひろ」を使った取組の原動力に



## 疑問1

「相互尊重」「意思疎通」「相互理解」という目的・目標は、学習者だけが日本語を覚えるっていうより、社会の構成員みんなで学び合わない、目指せないんじゃないか?!

### 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標

#### 【目的】

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り生活できるようになること

#### 【目標】

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

## こんなことを、やってみました

☆ 「生活者としての外国人」のための日本語教室で、目標に据える「できる」を、たくさん考えて列挙してみよう。

☆ 私が考えた「できる」と、「つなひろ」の「できる」を比べてみよう。



## 疑問2

「あとは図書館の人が教えてくれますよ」って、  
本当に？！

【レベル2 シーン7-2 「なにかあたらしいことをやりたいです」】

「在留カードを持って行ってください。あとは図書館の人が教えてくれますよ」

## こんなことを、考えていました

☆「あとは図書館の人が教えてくれますよ」って、本当かな…。  
予め教室内で、日本語教師や支援者が窓口を想定した会話練習を  
しておかなくても、大丈夫なの？！

☆このあと、本当に図書館へ行くとしたら、教室ではどんな言葉を勉強  
しておけばいいのかな。



### 疑問3

「はい、大丈夫です」って、どうして、大丈夫なの？

【レベル2 シーン7-2 「なにかあたらしいことをやりたいです」】



「1人で大丈夫ですか。」

「はい、大丈夫です！ありがとうございます。」

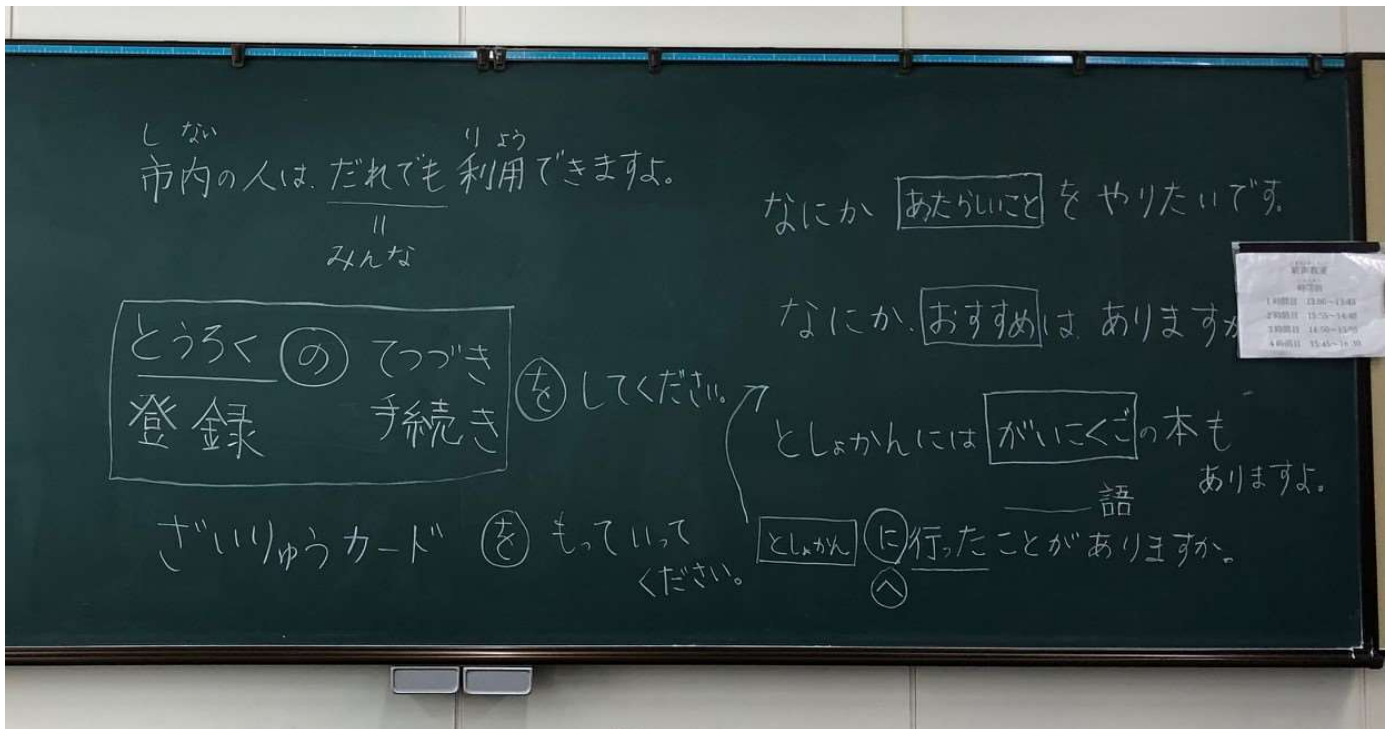


「自己効力感」というキーワードにたどり着きました

☆動画に出てくるオウさんのように、学習者が「1人で大丈夫」と自信を持てるような教室活動は、どうしたらいいのかな？!

## ～ 取組事例 ～

初めて図書館を利用することを係員に伝え、係員の指示に従いながら、必要な事項を記入し、貸出カードを作ることが「できた」



レベル2 シーン7-2「なにかあたらしいことをやりたいです」では、動画を見たり、スクリプトを読みながら、図書館の利用について必要な手続きができることを目標にしました。



職員に最初の言葉を何と云うか…。図書館に到着してから緊張しないよう、レベル2 シーン11-1「かじだしカードをつくります。」のアンジェラさんを参考に各自考えました。

バイリンガル指導者が学習者の言葉を引き出す支援をしました。





## ～ 取組事例 ～

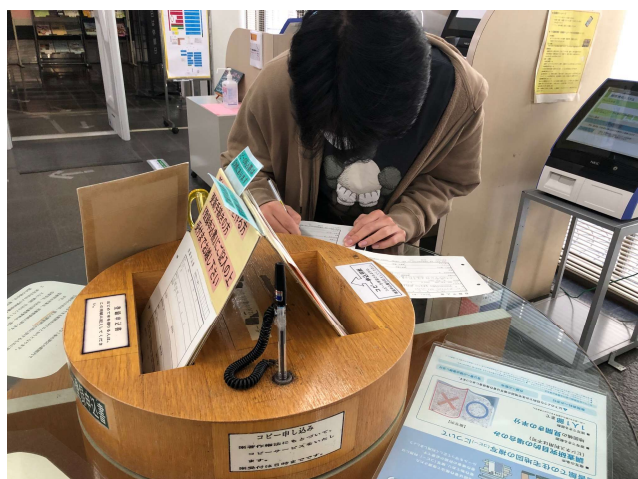
初めて図書館を利用することを係員に伝え、係員の指示に従いながら、必要な事項を記入し、貸出カードを作ることが「できた」



「つなひろ」の「記入してみよう!身近な書類」の動画を視聴しました。そのあと、在留カードを見ながら、貸出カード申請書の必要事項を書く練習をしました。



本取組は浜松市の施設である協働センターで実施しています。同センター内にある図書館へ移動して、いざ実践です!!



教室で練習した通り、記入台で申請書類に必要な事項を書きました。



## ～ 取組事例 ～

初めて図書館を利用することを係員に伝え、係員の指示に従いながら、必要な事項を記入し、貸出カードを作ることが「できた」



すみません、  
貸出カードを  
作りたいです

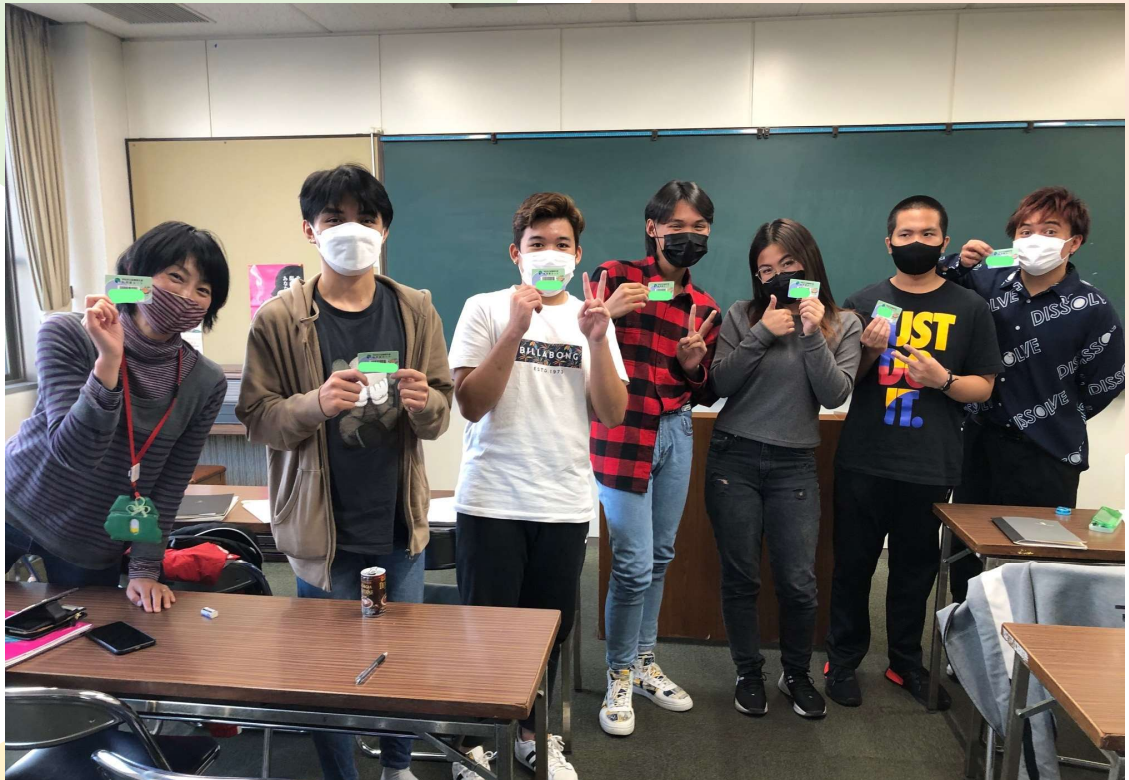
初めて来ました。  
図書館のカード  
できますか

利用案内です。  
英語版のほうが  
いいですか。

ありがとうございます

## ～ 取組事例 ～

初めて図書館を利用することを係員に伝え、係員の指示に従いながら、必要な事項を記入し、貸出カードを作ることが「できた」



### コーディネーターとして気づいたこと・教室活動の成果

アンジェラさんやオウさんと同じことを言わなくても良いと感じるようになりました。

「つなひろ」の言語選択を使うと場面理解が深まります。この場面で、「私だったらこう言うよ」というのを考えてから図書館へ行きました。

「自分で練習した言葉を使って、カードを作ることができた」という一連の体験は、皆の自信につながったように見えました。

いっぽう職員は、利用者に向けたサービスを説明するという業務を懸命にしてくださったと思います。

その様子を拝見し、これまでは日本語教室の中に社会を疑似体験する機会を取り入れることを考えてきましたが、今後、教室活動ごと外へ出ていくことも考えていきたいと思うようになりました。



## 疑問4

「たずねることができる」というCan do!にもかかわらず、アンジェラさんは先輩に質問をしまくっている様子が見られない。どういうこと?!

### 【レベル3 シーン2-1 「これがひなんばしょのマークです。」】

「防災」に関するテーマでのCan doは、いろいろ考えられますが、「つなひろ」のこのシーンでは、次のようになっています。

- ★台風や地震のときの「避難場所」について、**たずねることができる**
- ★その説明を理解し、さらに疑問に思ったことを**きくことができる**

## 「あいづち」は、意志疎通の大事な要素だと気づきました

☆「鈴木さんと話せて、ちょっと安心しました」というアンジェラさん。同僚の鈴木さんと、どんなことを話した結果、安心したのかな?!

☆このCan doにある「聞くことができる」「たずねることができる」というのは、スクリプトの中では具体的にどの部分にあたるの?

☆アンジェラさんのように「鈴木さんと話せて、ちょっと安心しました」という言葉を学習者から引き出せるような**「ワーク活動」**を考えてみよう!





～ 取組事例 ～  
あいづちに注目



鈴木さんと話せて、  
ちょっと安心しました。

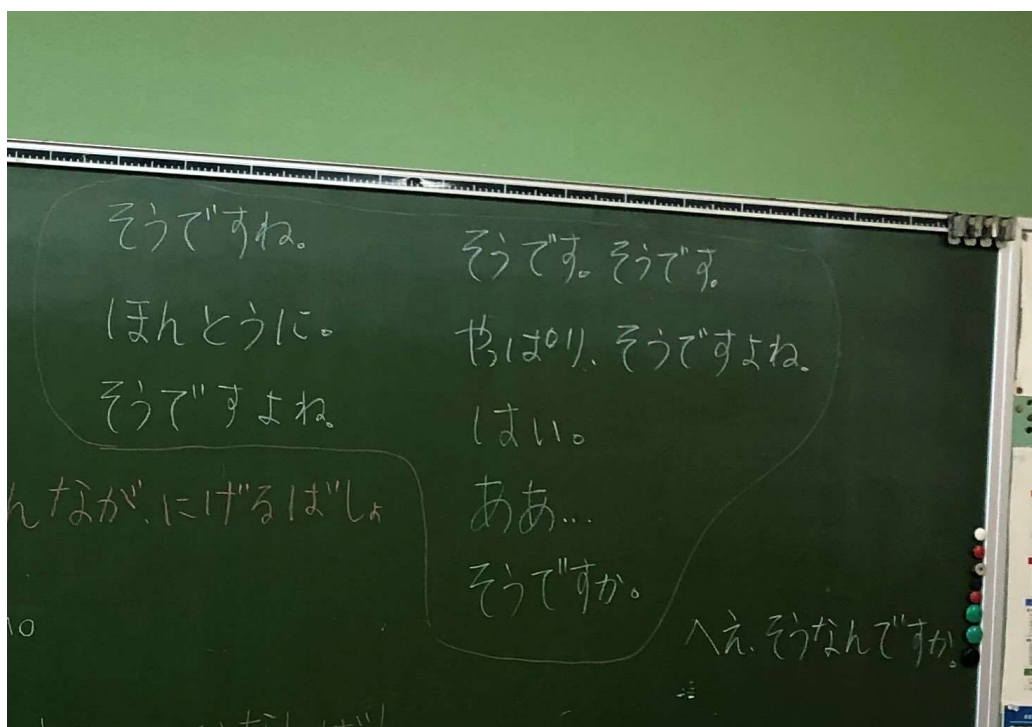
私なりに解釈してみたところ、

★このCan-doは、

「鈴木さんと話せて、安心しました。」

を引き出すためのものかも！？

★あいづちで、会話が進展している！！





## ～ 取組事例 ～

「つなひろ」で日本語を勉強したあと、ワーク活動を取り入れて



この日の活動のため、センター長が館内の避難経路図をよく見える所に貼り替えておいてくださいました。

また、館内の消火栓を探すという施設ツアーのアイデアを考えてくださっていました。



施設ツアーでは、漢字を読める人がいたところ、センター長が「みなさんは、漢字も読めるんですね」と驚いていらっしゃいました。



「私は、心臓が弱いから心配」と言った学習者の声をセンター長が聞いて、「センターにはAEDもありますよ」と見せてくださいました。







## ～ 取組事例 ～

「つなひろ」で日本語を勉強したあと、ワーク活動を取り入れて



「防災」をテーマにして  
I've learned different types of disaster.

## コーディネーターとして気づいたこと・教室活動の成果

予め、センター長に

- ・施設の避難経路や緊急時の対応について、教えていただきたいこと
- ・日本語教室なので、日本語を使って交流することも目的の一つに入っていること

を簡単にご説明しただけでしたが、協力いただけることになりました。

この取組を通して、センター側が、利用者の安全・安心というサービスを考えてくださったことがとても嬉しく、感謝しています。

活動後、センター長と親しくなり、「実は最近、住民票取得のために外国人が増えているんだけど、自分たちも意思疎通に苦労している」と聞かせてくださいました。

今後、センターを中心に日本人と交流する場になるような日本語教室を展開していきたいと思うようになりました。

